

東京都の公立学校の情報化をすすめるために

特定非営利活動法人とうきょうED 幹事 湯澤 太郎
(財団法人 科学技術融合振興財団 事務局長)

yuzawa@fost.or.jp

キーワード：情報教育，情報モラル，社会人講師，e-Learning

1. とうきょうEDとは

とうきょうED（“えど”と発音してください）は、東京都の公立学校における教育の情報化を推進する、教員と社会人ボランティアのネットワークである。今年よりNPOの認定を受けている。



東京は、地域としては広すぎる特殊性から、情報化を進める努力をしている教員が孤立する状態が続き、情報化を支援しようとする社会人ボランティアも、支援する糸口を見出せなかった。よい実践やコンテンツを持ちながら、人や物や情報の出会いの場がないばかりに、全体としては情報化に遅れをとってしまっている。とうきょうEDはそんな現状を変えるため、できることから情報を公開し、ネットの内外で交流を図ろうとしている団体である。



以下、これまで取り組んできた実践を紹介しよう。

2. みんなで作る！社会人講師実践映像データベース@東京（平成13年度 Eスクエアプロジェクト地域企画）

「異なる国籍，異なる文化，異なる年齢。新たな出会いで，生徒は自分を発見し，他者を理解する力を養う」といったスローガンで始めたプロジェクトである。



プロにはプロの技術，生き方がある。それぞれの個性に触れ，「好きなことで生きる」ことについて考える機会を子供たちに与えた。しかし，単に社会人講師を学校に入れただけでは，授業は成り立たない。



そこで，社会人講師が授業する様子を動画データベース化し，教員が講師を選択するときの材料となるようにした。

学校で学習した内容が，将来の仕事の中で活かしている姿を見て，なぜ学ばなければならないのかという強力な動機付けを，子供たちは実感していた。プロジェクトとしては終了したが，現在でも支援及び派遣を続けている。

実践済み社会人講師派遣例（一部）

チベット文化研究所嘱託研究員，ギター演奏家，打楽器奏者，押絵羽子板職人，ゲームクリエイター，Webデザイナー，ライター，シナリオライター，翻訳家，国土交通省建設専門官，市販就職情報誌主任研究員，ベンチャー企業社長，起業家育成フォーラム，・・・などなど。

3. 情報教育実践のための学校向けeラーニング支援（平成15年度 Eスクエアアドバンス IT活用教育推進企画）

e-Learningは，自分のペースで学習が進められ，いつでも振り返りができるなど，新たな学習環境として注目されている。しかし，現状のe-Learningをそのまま小中高等学校に持ち込んでも，ただの自習コンテンツになってしまう。そこで，同期型と非同期型の2種類あるe-Learningを，コンテンツ開発も含めて実証授業を行った。



教育センターから、講師の映像と教材をそのまま学校に配信する授業を行った。社会人講師として行くには困難な離島や僻地でも、授業内容を工夫すれば、e-Learning が有効に活用できることがわかった。



同期型用コンテンツ
「情報モラル体験教材」

非同期型コンテンツ
「携帯電話のモラル」



3. 携帯電話マナー・トラブル事例教材「みんなのケータイ」(平成17年度 NTT DoCoMo/ モバイル社会研究所) 携帯電話の安全教育教材「みんなのケータイ ～事例で学ぶケータイ・トラブル」を制作した。詐欺や金銭トラブルだけでなく、マナーも含めた事例を全部で7つ紹介する。

子供たちにはまずトラブル事例のマンガの部分を読ませ、「どこに問題があるのか」を自らの身近な問題として考えさせた後、分析や資料のページを参照させて問題点や対策を解説できる構成である。

見開き構成にすることで、授業でも使いやすく、利用する教員のスキルに合わせて活用のレベルを変えられる工夫がされていることで、現在でも利用の問い合わせが後を絶たない。現在では「モバ研 子ども！会議室」にてPDFによる配布を行っている。

4. 今後の活動

とうきょうEDは、これまで人材の活用から教材の開発、新技術の実証授業まで、東京都の公立学校の情報化が進むためのあらゆる方策を行ってきた。これからも、さらに教育の情報化を推進するために活動の輪を広げていくつもりである。

■参考となるサイト

- とうきょうED <http://tokyo-ed.net/>
- モバ研 子ども！会議室 <https://www.moba-ken.jp/activity/report/children/web/> (無料の会員登録が必要)

